



全羅北道文化交流事業



専門家の指導でハンコ作り体験

鹿児島県と友好協定を結ぶ韓国全羅北道の国際交流センターの協力を得て、令和2年度から隔年で交互にお互いの地の文化・歴史や自然を学ぶ講座を開催しています。これまで新型コロナウイルス感染症の影響でリモートでの開催でしたが、水際対策の緩和を受けて、事業実施から初めて全羅北道より文化指導の先生等を鹿児島にお招きして対面で実施しました。

今回の講座は令和4年10月29日に午前と午後の2部構成で実施し、午前は、主に小中学生とその保護者を対象に韓国の伝統的な紙「韓紙」を使った花作りと韓服での写真撮影体験に21人、午後は、大人を対象としたハングルハンコ作り体験に34人の参加がありました。

韓紙花づくり体験では「わかりやすい言葉で説明していただき、とてもいい講座でした。」「とても楽しかった。これで全羅北道に興味を持った。」、ハンコ作り体験では「ハンコを彫るのは難しかったが、貴重な体験ができた。」などと好評でした。来年度は全羅北道の皆様へ鹿児島の文化・歴史などを紹介いたします。少しでも鹿児島に興味を持ってもらい、交流のきっかけづくりになればと考えています。

青少年国際協力体験事業「Global Camp in 大隅～国際協力×異文化理解×かごしま～」



参加高校生と留学生たち

鹿児島県青少年国際協力体験事業は、鹿児島県の青少年を開発途上国に派遣し、ホームステイや学校等での交流を通して相互理解を深めるとともに、現地で途上国の国づくりに貢献している青年海外協力隊の活動現場の視察等をおして、国際協力に対する理解を深め、国際性豊かな人材を育成することを目的に、鹿児島県青年海外協力隊を支援する会、青年海外協力隊鹿児島県OB会、(公財)鹿児島県国際交流協会の三者で実施してまいりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、令和2年度から3年間に渡り中止を余儀なくされていました。

そこで、海外に行かなくても国際協力や異文化についての理解を深めるような体験ができないかと検討を重ね、県内の高校生を対象に『グローバルキャンプ in 大隅～国際協力×異文化理解×かごしま～』を国内での初めての試みとして開催いたしました。

国際協力ワークショップや協力隊OVとの交流、県内国際協力活動地域の視察、留学生との交流等を通して、高校生のみなさんは意欲的に様々なことを吸収してくれました。最終日には「この研修を通して国際協力の大切さを肌で感じた。」「今後はこの経験を自分の進路につなげて頑張りたい。」という意気込みとともに、短い時間で、自分の殻を破りつつある姿を見せてくれ、大変嬉しい3日間でした。そんなきっかけを作るためにも来年度こそ、多くの中高生を海外に派遣できるよう万全の体制を整えたいと思います。

鹿児島で世界を語ろう！第28回外国人による日本語スピーチコンテスト



本選出場者と審査員

今年度の日本語スピーチコンテストには、30名（13カ国）の県内在住の外国人から応募があり、その中から予選を通過した10名（7カ国）が、令和5年1月28日に行われた本選で発表しました。最優秀賞を受賞したのは、『国籍からの自由』というタイトルでスピーチをした、大韓民国出身のユン チェユンさんです。

国籍にとらわれず、自身のアイデンティティに誇りを持っている人たちに出会い、また国籍が違って自分と何も変わらないことを実際に感じて、国籍で人を定義することはできないとい

う気づきを語ってくれました。

また、その他の出場者も、鹿児島での生活や人との交わりを通じて感じた自分自身の思いをしっかりとした日本語で伝え、すばらしいスピーチを披露してくれました。

留学生緊急生活支援事業



留学生のひとり1人に商品券を贈呈

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により学業や生活に困難をきたしている県内在住の外国人留学生を支援するために商品券を給付をする事業を実施しました。

昨年度は県内の大学等に在籍する留学生へ商品券を給付しましたが、今年度は専門学校等に在籍する325名（令和4年7月1日現在）へ商品券を給付しました。

給付の原資は、「留学生のお姉さん」と慕われていた東文子氏のご遺族からいただいた寄付金を充てています。商品券を受け取った留学生からは「留学生を支えた東さんのことを知り感動しました。支援に感謝し、さらに学業に取り組みたい」、「生活費に使いたい。将来の目標に向かって頑張りたい。」という声が聞かれました。

これからも留学生の皆さんが困難を乗り越え鹿児島と母国との架け橋となることを期待しています。

国際交流協会が取り組む留学生支援

・外国人留学生支援資金貸付

この制度は、鹿児島県内で学ぶ留学生の皆さんが、生活費、住宅費、医療費、学費、一時帰国費等で、一時的、臨時的に多額の出費が必要な場合に、それを支援するために資金の貸付けを行うことにより、安定した学業ができる環境づくりのお手伝いをするものです。



↑支援資金貸付制度
についてはこちらから

・留学生研究活動助成金交付

県内に居住する外国人留学生の研究活動を支援するために、外国人留学生の学会等参加に対する助成金の交付を行うものです。



↑研究活動助成金
についてはこちらから

・外国人留学生交流活動事業助成金

この制度は、鹿児島県内に居住する外国人留学生と県民との交流を促進するために、留学生で組織する団体及び留学生に対して支援を行っている団体等が実施する留学生と県民との交流等に対する助成金を交付する制度です。



↑交流活動事業助成金制度
についてはこちらから

パラグアイ鹿児島県人会創立60周年記念講座



移住時の写真を紹介

パラグアイ鹿児島県人会創立60周年を記念して、令和4年11月20日にかごしま県民交流センターにて『パラグアイと鹿児島』講座を開催しました。

パラグアイ在住の園田八郎氏（パラグアイ鹿児島県人会副会長・イグアス移住史料館館長）を講師として、現地とオンラインで繋ぎ、園田氏ご自身の経験を交えながら、パラグアイの移住の歴史等をお話いただきました。参加者は、会場参加とオンライン参加の両方を募り、パラグアイや鹿児島にゆかりのある方々に、県内外やパラグアイからも広くご参加いただくことができました。

た。講座は、パラグアイ移住史料館や講師から提供された貴重な写真を画面にて共有しながら、対話形式で進められ、移住当時のパラグアイの移り変わりや人々の暮らしを聞くことができ、パラグアイと鹿児島について知識を深める時間となりました。

日中国交正常化50周年記念講座



第一回講座「中国の紹介」

日中国交正常化50周年を記念して、令和4年9月3日と10月10日に『中国文化紹介講座』を開催しました。

一回目の講座は、二部構成で行いました。第一部は、中国語の自己紹介や中国語の流行語などを取り上げ今の中国について紹介いただきました。第二部では、日本にある食材で「北京ダック風サンドイッチ」と「台湾スイーツの豆花^{とうふあ}」を作りました。

二回目の講座では、歌をテーマにした講座を行いました。中国語で歌を練習し発表するという難易度の高い講座でしたが、参加者の皆さんは一生懸命取り組み、「茉莉花^{もーりーふあ}」、「小星星^{しやおしんしん}」などを中国語で熱唱しました。

両方の講座で、日中国交正常化までの道のりについて説明を行い日中の関係性についても知識を深めていただきました。

参加者からは、「いろいろな側面から中国を知ることができた」「知らないことがたくさんあった。これからもっと中国のことを知りたいと思った。」などの声が聞かれました。参加者の方にとって親善交流について考える良い機会となったのではないのでしょうか。これからも日中の交流が末永く続くことを祈っています。

ベトナム理解講座



出水市在住のベトナム人のふるさと紹介

県内在住外国人のうち人数が1番多い国ベトナムについて、ベトナム出身者を講師として民族・文化・生活・言語等多岐にわたる実情を学び、ベトナムへの理解を深める講座を県内3か所（出水市、霧島市、鹿児島市）でそれぞれの市と連携して開催し、延べ68名の参加がありました。

出水市と霧島市では、講座の前半は、当協会職員が講師となりベトナムの概要についての講話を行い、後半はゲストとしてお招きした各市在住のベトナム出身の方々より、出身地域を『ふるさと紹介』と題して発表いただきました。鹿児島市では、ベトナムのテト（旧正月）について紹介後、ゲストのベトナム出身の方と参加者が

一緒に、テトの縁起物として欠かせないドンホー版画の色塗りをし、ベトナムのテトを身近に感じる講座になりました。参加者から「ベトナムの若い人達の「生きている」という熱気を感じ感動しました」、「ベトナムの方が身近でたくさん働いていらっしゃるの、もっと親しくなりたい思いで聞きました」等の感想をいただきました。参加者の皆様にとって、ベトナムについて理解を深め、また身近にいらっしゃるベトナム出身者とのコミュニケーションを図る際に参考となる講座になったのではないのでしょうか。

災害時に助け合えるまちづくり事業



防災カッパ作り（和泊町）

今年度は10月に和泊町、11月に湧水町との共催で、周辺地域在住の日本人及び外国人を対象とした『災害時に助け合えるまちづくり事業』を開催しました。両講座合わせて日本人18名、外国人17名の参加がありました。

午前の講座では、在住外国人向けに鹿児島の災害や防災対策について学ぶ基礎講座を、在住外国人支援者向けに外国人へのやさしい日本語講座を実施しました。

また午後の講座では外国人と日本人合同のワークショップを行い、簡易トイレと防災カッパ作り、ハザードマップを見ながら

居住地域の危険箇所や避難場所・避難経路を確認しました。

参加者からは、「外国人と今後の関係に繋がるプログラムが豊富でよかった。」「危険な時にどのように自分の身を守り、どこに避難した方が良いのかを学びました。」などの感想がありました。今回の事業が平時からの顔の見える関係づくりのきっかけとなり、災害時における外国人支援につながるよう願っております。

日本語・日本理解講座



自分の国を日本語で紹介

鹿児島で生活する外国人が、生活に役立つ日本語や日本人の習慣などについて学ぶ『在住外国人のための日本語・日本理解講座』を令和4年5月から令和5年2月まで全60回（水曜昼間クラス30回、木曜夜間クラス30回）実施しました。

今年度は、新型コロナウイルスの影響を受け、従来のディスカッション形式ではなく、受講者同士の距離を保った学校形式で行いました。講座では、少人数に分かれて、普段の生活で目にする道路標識を使って漢字を学んだり、学んだ文法を使って寸劇をしたり、他の国から来た受講生に、ご自身の国について紹介するスピーチをし

たりと、様々な側面から日本語を学びました。受講生からは、「自分が勉強したいことにそった授業で、普段の生活に役に立った。」「もっと勉強して日本語を話せるようになりたい。」などの意見をいただき、日本語学習に意欲的に取り組んでいる様子が伝わってきました。

日本語サロン おしゃべりひろば



照國神社での講座参加者

日本語の日常会話が可能な外国人を対象に、ネットワークづくりや日本語の上達を目的とした『日本語サロンおしゃべりひろば』を今年度は全8回行いました。

『習字』、『夏祭り』や『着物』をテーマに日本文化に触れ、またゲストを招き「日本語」「警察」や「和牛」をテーマに幅広い話題でみなさんと盛り上がりました。

また、「初詣について知ろう！」をテーマに実際に照國神社へ出向き、境内を散策し、参拝方法やマナーについて学びました。

参加者からは、「色々なことを身に付けました。」「日本文化を深く知るいい機会になりました。」「みなさんの意見をもとに話し合い、良いことを学びました。」という声が寄せられました。

おしゃべりひろばをきっかけに参加者同士の輪が広がり、日本語学習の意欲に繋がっていくことを期待します。

英語絵本のよみかたり



鹿児島市での絵本のよみかたり

「英語絵本のよみかたり講座」は、3歳から5歳までの幼児期の子どもとその保護者を対象に英語に慣れ親しむ機会を提供するとともに、英語への関心を高めることを目的に実施しています。

今年度は、鹿児島市内で5回、出張講座として南九州市といちき串木野市で各1回、合計7回の開催となりました。

本講座では絵本の読み聞かせをはじめ、英語の歌やゲーム、工作等を実施するとともに、講師と子ども一人ひとりがコミュニケーションを取ることを心がけています。保護者からは「先生が一人ひとりに声をかけてくれて、とても素敵な時間でした。」「普段とは違う環境に娘は緊張していましたが、先生がとてもやさしく対応してくださったので、すごく楽しそうでした。」という感想も聞かれました。

今後は、この講座をとおして、一人でも多くの子ども達に楽しく英語に触れる機会として県内各地での開催に努めていきたいと思います。

語学ボランティア研修



外国人を交えて通訳体験

当協会の語学ボランティアに登録している方々を対象に、通訳技術の向上等を目的とした研修を実施しました。当日は語学ボランティア10名、在住外国人6名の参加がありました。

第一部ではアイエス通訳システムズの山崎美智子先生より講話をいただき、通訳ボランティアとしての役割や心がまえ、通訳時にキーワードを掴むコツなどを学びました。

第二部では、実践編として、まずウォーミングアップとして外国語を使い伝言ゲームを行いました。その後、実際に在住外国人が観光客役を務め、グループに分かれて通訳体験の実践をしました。

参加者からは「緊張しましたが、頭のブラッシュアップになりました。」「しっかり学んで訓練することの重要性を感じました。」などの感想がありました。

今回の事業が語学ボランティア登録者のモチベーションの維持やスキルアップにつながり、ボランティア同士のコミュニケーション作りの機会となることを期待しております。

協力隊OBと留学生が先生事業



母国のベトナムを紹介

鹿児島県青年海外協力隊を支援する会、青年海外協力隊鹿児島県OB会と当協会の3者で実施しているこの事業は、年間約40校の小・中学校に青年海外協力隊として活動していたOBや県内に在住する留学生などの外国人を講師として派遣しています。この事業は、協力隊OBによる海外での活動体験の話や留学生などとの交流により、国際協力・国際理解を学ぶことを目的にしています。

今年度は新型コロナウイルスの影響により、従来の交流型の授業はできませんでしたが、写真や動画を使って体験や国を紹介したり、

民族衣装を見せたりと、教科書だけでは知り得ない事柄を紹介しました。

今年度実施した41校の約2,300名の児童・生徒からは「他の国についてもっと知りたくなった。」「知らないことが沢山あった。」「大人になったら協力隊として海外で活躍したい。」などの感想をいただきました。

この事業が、国際理解教育としてだけでなく、自分の将来について考える良い機会となっているようです。

JICA 情報



世界もあなたも、可能性に満ちている。

JICA(国際協力機構/ジャイカ(注))は、日本の政府開発援助(ODA)を一元的に行う実施機関です。

(注) JICA は、Japan International Cooperation Agency の略称です。開発途上国のニーズや、課題の解決に向けて、無償資金協力、有償資金協力、技術協力の手法を組み合わせ、様々な取組を行っています。

■ JICA 海外協力隊

JICA 海外協力隊とは、開発途上国からの要請に基づき派遣され、現地の人々と共に途上国の課題解決に取り組むことを目的としています。鹿児島県からは、これまでに約1,000名が派遣されており、派遣中のみならず、帰国後も各分野での活躍が期待されています。JICA 海外協力隊は、20歳から69歳の方ならどなたでもご応募頂けます。ご自身の知識と経験を途上国の課題解決に役立ててみませんか？



活動の様子



いっしょに世界を変えてみよう。
JICA海外協力隊

また、この他にも、元協力隊員による出前授業、NGO/NPO 団体や企業の国際協力支援事業など、様々な取組を行っています。詳細は、HP もしくは、JICA デスク鹿児島まで、お問合せください。

鹿児島県国際交流協会には JICA 事業の窓口として「JICA デスク鹿児島」があります。

< JICA デスク鹿児島 > TEL : 099-221-6624 E-mail : jicadpd-desk-kagoshimaken@jica.go.jp

国際交流プラザのご案内

- ・ イベント情報等の掲示板
- ・ 国旗、民族衣装、地図、ユニセフビデオの貸し出し
- ・ 外国語新聞、図書、雑誌等の閲覧
- ・ 中国語ランチタイムトーク(毎週火曜12:00 ~ 12:45)
- ・ 韓国語ランチタイムトーク(毎週水曜12:30 ~ 13:15)
- ・ ランチタイムイングリッシュクラブ(毎週金12:00 ~ 12:45)



国際交流サロン

○国際交流に関するご質問や、ホストファミリー・語学ボランティアの登録については、随時受け付けております。お気軽にお立ち寄りください。

外国人相談窓口

外国人総合相談窓口では、県内にお住まいの外国人の方々からの各種相談に応じています。

○相談方法：面接、電話、メール、Facebook メッセンジャー

TEL : 070-7662-4541 Email : kiasoudan@gmail.com

○相談窓口 Facebook : <https://www.facebook.com/Kiasooudan>

○対応言語：23言語 日本語、英語、ベトナム語は相談窓口で対応します

その他の言語は、多言語コールセンターを活用します。



相談窓口 Facebook
QRコード



【外国人総合相談窓口】

【国際交流プラザ、本誌に関する問い合わせ先、相談窓口】 公益財団法人 鹿児島県国際交流協会

〒892-0816 鹿児島市山下町14番50号 かごしま県民交流センター1階

TEL: 099-221-6620 / FAX: 099-221-6643 E-mail: kia@kiaweb.or.jp

HP: <https://www.kiaweb.or.jp> Facebook: <https://www.facebook.com/Kagoshima.Intl.Assoc/>

《開館時間》9:00 ~ 17:00(火曜日~日曜日) 《休館日》月曜日(但し祝日の場合はその翌日) / 年末年始(12月29日~1月3日)

